

くむ則盛安公を所前め招き自ら辱中を取くし
させむい遠國より早速登る条非ゆれ至りあり所各
軍功をいげまふれよとの仰り後人で視をせし退
出りけり一処は五月初より盛安を病を治むに様
倉屋に谷を居る保養ありこれ共終る六月十六日二十
式軍より進去はけ九所又所改盛六軍是より依て盛
安は所預りて言才平九所元盛十五軍是を陳代
めく仙北山浦北並相違なく家督相續なり文録
元年大同三韓所征伐は時光盛元前名古屋に執
不憐品姫路あり其例逝去時より十七年家臣戸は相

模八柳右馬允戸は四所兵衛に奉行小達す長来大藏太
夫中送りありおれく士卒をまとい大坂に著い時家臣
公北所口より九所又所母黨ともふく大坂に登せ
然る登り依り簡將監佃田庄九所を角館に遷す所
八月二日角館に著依り七日改盛所母黨と共に角館
を所立所供ふ永山淡路田口平治簡造酒と元大次
親負黒川兵衛堀田三左門西野後理を始め二十人
雜兵五十余人夜を日小繼ぐ日二十一日大坂に所着八所
右馬允戸は相模早速徳川殿に上以後金森曾玄
法平仰りて戸は兄弟度北軍忠ありとし共